

[okazaki_110]

活動タイトル	南線小学校・総合学習「エネルギーはどこから」
実施日	2018年12月11日
場所	石狩市南線小学校（石狩市）
対象数	小学6年生 157人、先生・石狩市職員 8人
内容	<p>総合学習「私の暮らしに大切なもの～エネルギーはどこから～」の7コマ目として実施。「パリ協定と世界の現実について」というタイトルで、「6コマ目で実施したボードゲーム『ガバチョ』で体験したように、世界では開発と環境保全のバランスをとるためのルール（CO₂削減に関する）パリ協定が作られたことを知り、開発と環境保全の間で揺れ動く世界の国々の動向について知る」というねらいに沿った内容を心がけました。</p> <p>配布資料としては、10問のクイズの回答を書き込むワークシートにメモ欄を追加したものを用意しました。</p> <p>ちょうどパリ協定のルールをきめる COP24 がポーランドで開催されているタイミングでした。そこで、気候変動枠組条約が採択された 1992 年の地球サミットで、カナダの 12 歳のセヴァン・スズキさんが、大人に対して、「どうやって直すのかわからないものを壊し続けるのはもうやめてください」と、環境問題への積極的な取り組みを求めるスピーチを行ったことを話しました。</p> <p>全世界で温暖化問題に取り組もうという「パリ協定」まで、23 年もかかってしまい、その間に、温暖化の影響はどんどん深刻になってしまったこと、けれども、ようやく全世界で取り組みに向けて、動き出していること、日本でも、さまざまな分野で取り組みが始まっていることを伝えました。</p> <p>また、現在、スウェーデンの 15 歳のグレタさんが気候変動への取り組みを訴えるため、国会前で座り込みを続けていることも伝えました。</p> <p>これらの内容は、私自身が直接経験したことではないので、リアリティを持った自分の言葉で話せず、伝わりづらかった気がしました。</p>
実施写真等	